

ウバガイ (ほっきがい)



生態的特徴等

【生態】北海道から茨城県の潮間帯下部から水深 30 m の砂底に生息し、本県は本種の南限とされている。鹿島灘では、水深 5～12 m の砂泥域が生息場となっている。産卵期は春季で、3 週間程度の浮遊期を経て海底に着底し、その後の顕著な移動はない。長命で、寿命は 20 年程度とされる。3 歳で概ね殻長 80 mm を超え (図 1)、漁獲対象となる。

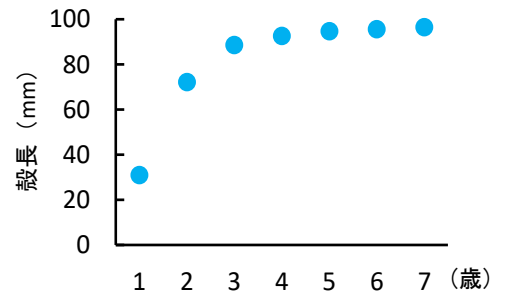


図 1 ウバガイの成長

【漁法と盛漁期】

鹿島灘では貝けた網で周年漁獲されている。北茨城から東海地先の砂浜域にも小規模な漁場が形成されることがあり、不定期に操業が行われている。

【利用】

むき身を湯通しした刺身や炊き込みご飯などの食用の他、カレイ延縄の餌としても利用される。

新規加入少なく、資源は減少

(漁獲量) H12～22 年には 100～500 トンの漁獲があったが、H23 年以降は 100 トン未満となっている。貝けた網で漁獲されるが、漁場の異なる鹿島灘はまぐりを狙った操業で混獲されることが多く、R5 年の漁獲量は 3 トンであった (図 2)。

(加入量) 資源は卓越年級群の発生によって維持される。最近では H21 年、H24 年に稚貝が多く発生した。

(水準と動向) 資源水準は、本県の調査船調査結果から算出した推定重量の推移から「低位」、動向は、直近 5 年間の推定個体数の推移から「減少」とした (図 3)。

水準



動向

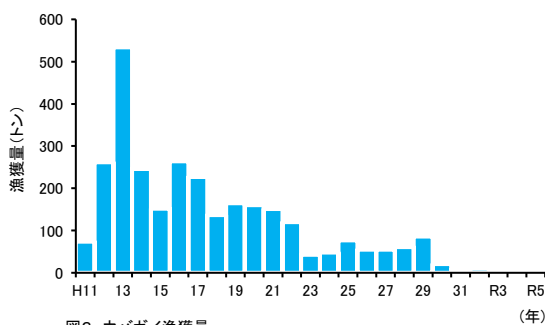


図 2 ウバガイ漁獲量 (農統(～H18)、水試聞き取り(H19～)、属地)

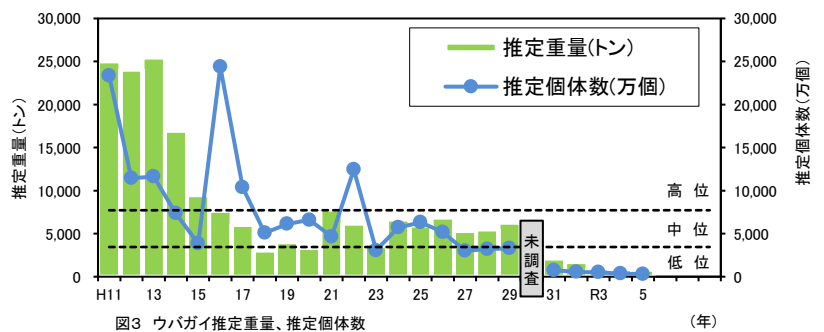


図 3 ウバガイ推定重量、推定個体数 (水産試験場調査船調査結果より)

【全国の漁獲動向】

北海道、青森県 (太平洋側)、福島県が主要産地となっている。